



断つことなく

この文章が掲載されるころにはすでに熱は冷めていっていると思いますが、今年の夏の甲子園は駒大苫小牧高校が三連覇を逃し、それでも準優勝をいたしました。

練習環境にハンデがあるといわれた北海道のチームが優勝すること自体が信じがたいことでしたが、駒苦がここまで強く成長したことを心から喜ぶと同時に、この3年間活躍した選手たちが卒業した後も新たな選手たちが彼らの後を継いで、更に甲子園で活躍し続けるチームになってほしいと願っています。

特に今年は、逆転で辛勝する試合が続きハラハラのしどおしでしたが、負けた時点で甲子園を去らなければならないなか、香田監督が全員野球を基本として多くの選手を起用しかつオーダーを頻繁に変更しながら勝ち続けてきたことが、選手たちの入魂のプレーに対する感動と同時に、野球を通じて人を育成する監督の采配の重みを勝敗以上の価値として感じておりました。

この3年間、優れた戦績を残せたのは世代最強と称された田中投手の突出した才能が際立っておりましたが、個人の高い能力のみで甲子園を勝ち続けることは困難であり、選手1人ひとりが自らの能力を発揮しさらにチームとしての全体の力を絶えず意識してきたことが、厳しい練習と相俟って優れた結果を生みだし継続してきた要因と思います。

職場での人材育成、能力開発を担当する者として駒苦チームのここに至る道程、そして将来について強い関心を抱くのはごく自然のことと思います。

駒苦チームが初優勝したときは大半の選手が北海道出身でしたが、その後全国から才能のある生徒が入ってきていると思います。人材や練習環境が良くなっていくとしても、毎年主力選手が交替していく高校野球であればこそ駒苦チームの強さを支える本当の持ち味「心をついに」「信頼」を長く受け継いでいくことは大変難しいことであろうと思います。

私は昨年、電力グループ会社の北海電工にまいり

人事労務教育関係の業務を担務するようになりました。当社は4年前にはほぼ同じ規模の同業種の企業合併を行い、昨年もグループ内の異業種合併を行ってきております。合併後の職場で大切なことはまさに駒苦の持ち味と共通します。さらに当社は合併前の数年間新卒採用を手控えたため現在20歳代の層が極端に少ない状態になっております。人材余剰によるとはいえ特定年代に大きな穴が開いており、特に技術継承や能力開発に重い課題を抱えております。

私事で恐縮ですが、引き継ぐべき者を欠くことの悲しさをつくづく感じたことがあります。

義父は約150年続いてきた刀鍛冶堀井の四代目でしたが、跡継ぎがなく直系としては自分の代で途切れてしまいました。義父は生前のある日、今まで入ったことのない作業小部屋に私を招き入れ、刀作りの秘伝書を開いて見せてくれ、さらに土置きから夜には焼き入れの作業まで見せてくれました。跡を継がない婿に一通りのことを見せ、無念さをそこで断ち切った感の義父も亡くなって5年経ちました。

現在は美術工芸品として高い評価を受ける日本刀ですが、価値のあるものとするにはきわめて高い技術が必要ですし、またそれだけで生業とすることはきわめて困難です。そのことがわかっていただけに代々養子を迎えてでも引き継いだ系譜を断ち切らざるを得なかったと思います。

当社の跡継ぎ不足も、高齢者雇用の義務化で更に問題が複雑化しております。駒苦の今後に夢を抱きつつ断つことなく人を育て、技術を引き継ぎ更に向上させるべく闘志を燃やしております。

みちがみ たかし

略歴	昭和48年	北海道大学経済学部経営学科卒業 北海道電力(株)に入社
	平成15年	同社 人事労務部長
	平成17年3月	北海電気工事(株)入社
	6月	理事人事労務部長